

第2回厚木地域小児等在宅医療連絡会議

平成28年12月19日（月）

神奈川県厚木合同庁舎 2号館4階A B会議室

開 会

(事務局)

それでは、まだお見えになっていない方もいらっしゃるようですが、定刻になりましたので開始させていただきます。私、神奈川県医療課の一柳と申します。よろしくお願いいたします。ただいまから、第2回厚木地域小児等在宅連絡会議を開催いたします。本日はお忙しい中、また夜分遅くにお集まりいただきましてありがとうございます。

まず、県医療課副課長の高橋からごあいさつさせていただきます。

(事務局)

神奈川県医療課副課長の高橋でございます。本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。前回第1回の会議では、この厚木の地域が抱える課題につきまして、意見交換をしていただきました。その後、事務局で地域の課題を一覧にして整理いたしまして、各機関内部でどんな対応策が考えられるかということでご検討いただいたところです。きょうの会議では、それらの検討結果を報告させていただきまして、それを踏まえて平成29年度はどんな取組をしていくかと、その取組内容の案についてご議論というか協議をしていただくことを予定しております。来年度、この厚木地域において、小児在宅医療の取組を進める上での認識の、意識の共有ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、本日の出席者についてでございます。本日の出席者につきましては、お手元にお配りしております座席表のとおりとなっております。なお、株式会社てだすけの中村委員からは、事前に欠席のご連絡をいただいております。また、北里大学東病院は、佐藤委員から伊勢田様へ委員が変更となっております。

次に、会議の公開について確認をさせていただきます。本日の会議につきましては公開とさせていただいております。開催予定を周知いたしましたところ、傍聴の方はいらっしゃいませんでした。なお、審議速報及び会議記録につきましては、これまでと同様、発言者の氏名を記載した上で公開とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の資料につきましては机上にお配りをしております。会議の途中でも何かございましたら事務局までお申しつけください。

それでは、以後の議事の進行は星野座長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

報 告

- (1) 小児在宅医療患者のためのメディカルショートステイ実施状況調査結果について

(星野座長)

皆さん、こんばんは。よろしくお願いいたします。そうしたら、最初に事務局が準備してくださった議事の次第に従って、早速始めていきたいと思います。

一番最初に報告ということで、メディカルショートステイの実施状況調査を事務局からご説明いただけますでしょうか。

(事務局)

神奈川県医療課の土井と申します。恐縮ですが座ってご説明させていただきます。

私のほうから、右上に資料1と書かれています小児医療患者のためのメディカルショートステイ実施状況調査結果というものをご説明させていただきます。こちらの調査につきましては、県内33市町村に対しまして、ことしの夏にメディカルショートステイを実施しているかどうか、それから、実施していると回答いただいたところには実施に当たっての課題といったことをお聞きしているものでございます。

まず結果の概要ですけれども、丸の1つ目で、すべての市町村から回答を提出いただいております。その中で、メディカルショートステイを実施している医療機関等の有無について「ある」と回答した市町村は4つでございまして、実施率は14%となっております。そのうち、実施機関に対して行政のほうから財政的支援があると回答した市町村は2つで、横浜市さんと相模原市さんでした。調査については、実施機関だけではなく、当該機関の受入条件までを把握することを目的としたのですが、結果としては実施機関の把握すら困難な結果となってしまいました。考えられる理由としましては、レスパイトを目的としたメディカルショートステイというものが制度としてまだ整っていないということ、また、家族からの希望にその都度医療機関が対応している状況で、実施を特に広く公開していないということが考えられます。

2番のメディカルショートステイ実施に当たっての課題ということで、実施していないと回答したすべての市町村が、メディカルショートステイは必要と回答しているのですが、その実施をするに当たっては次のような課題があると回答いただいております。1つ目のポチですけれども、医療と福祉の連携体制の構築が不足している。それから、医療的ケアを要する患者のレスパイトに対する適正な診療報酬の設定。入院患者との兼ね合いもあり、メディカルショートステイ枠のベッド確保は困難。常にベッドを確保するには補助がないと難しい。小児在宅患者のケース自体や医療資源が少ないこともあり、小規模市町村単独での整備は難しい。場所によっては受けてくれる病院はあるが、ケースごとの個別相談となるといったようなことが挙げられております。

3番ですが、実際にメディカルショートステイを実施している機関の運用に係る課題ということで、こちらは実施していると回答いただいた市町村さんが挙げてくださったことですけれども、土日祝日等、緊急時の受入対応ができないですとか、利用者から希望した日時での利用ができないとの声があるといった回答がございました。

4番、調査結果の活用ですけれども、今後、総合療育相談センターの短期入所連絡会議と情報を共有していきたいということが一点と、2つ目に、市町村情報交換会というものを年明けの1月にまた予定しておりますので、本結果について共有し、メディカルショートステイ実施に当たっての課題について検討することも考えられるとしています。

2ページ目はA3のもので、実施機関があると答えていただいた病院を記載しております。3枚目はその調査の実施概要となっております。

私からの説明は以上になります。

(星野座長)

ありがとうございます。以上の件に関してご質問のある方はいらっしゃいませんか。あるいはご意見でも結構ですけど。厚木市さんはどうだったのですたっけ。厚木市立病院で受けていらっしゃる。

(伊東委員)

市立病院小児科の伊東です。厚木市でも去年、おとしからメディカルショートステイを始めて、何人かの方にご利用していただいています。まだ始まって間もないので厚木市内にお住まいの方、それから小児ということで15歳以下の方ということで始めさせていただきました。ことしの秋に引っ越しをしたので、その関係でしばらくごたごたしてしましましてしばらくお受けしていなかったのですが、そろそろ再開できるかなと思っています。それが厚木市立病院の現状です。

それからもう一つ、こちらでちょっと確認というかお聞きしたいことで、アンケートの結果で財政的な支援があるというのが、横浜、相模原となっているのですが、厚木市は現状どうなっているのか、おわかりになるでしょうか。

(星野座長)

どなたからお答えいただけるか。障害の担当になるのか保健の担当になるのかわからないですが。

(伊東委員)

患者さんからは実質負担がないのではないかと私は認識しているのですけれども。

(眞田委員)

厚木市独自の事業となっておりますので、厚木市がすべて費用を出しております、利用者からについては食事の実費負担のみご負担いただいているような状況であります。そのほか国・県からの補助はないという状況になっております。

(伊東委員)

そういうことですか。わかりました。ありがとうございます。

(星野座長)

そうしたらここに、アンケート調査上は横浜、相模原だけになっていますけれども、厚木も財政援助があると思っていいということですね。

(眞田委員)

そうです。

(星野座長)

わかりました。ありがとうございます。ほかにご質問、ご意見はありませんでしょうか。よろしいですか。では、議題を進めさせていただこうと思います。

議 題

(1) 平成29年度厚木地域の関係機関が行う小児在宅医療に係る取組内容(案)

(星野座長)

次、報告から議題に移りまして、議題の(1)ということで、平成29年度厚木地域の関係機関が行う小児在宅医療に係る取組内容の案についてということで、これも引き続き事務局からご説明いただけますでしょうか。

(事務局)

引き続き、土井から説明させていただきます。資料2というものと参考資料1というのが後ろのほうについておりますので、2つごらんいただきながらお話ししたいと思います。資料2は、第1回の厚木地域で6月に行った会議の概要になります。参考資料1というのは今後の会議の進め方ということで、第1回の会議のときにスケジュールのような形でお示ししたのになります。

まず、参考資料1ですけれども、第1回の会議を6月17日に開催しまして、まずはこの地域の課題について共有したところでございます。第1回と第2回の会議の間で、厚木地域における課題、皆様からいただいた課題を整理して、また皆様にお返しして、その課題解決に向けて必要なことということで、各機関でご議論いただいて、右の点線の枠ですけれども、議論した結果を記載できる調書を医療課で作成し、各機関に記載いただいて、また医療課に戻していただいて、それを取りまとめたものが今回の資料3になっています。きょうの会議については、厚木地域における対応策の議論ということで、関係機関の意見をもとに取組内容(案)について議論していくという流れでございます。

では、資料2に戻っていただきまして、第1回の会議の中で出た主な意見ということで、四角枠で「テーマ」と書かれている下のあたりからですけれども、まずサポート体制で、関係機関とのネットワーク構築という話題の中では、関係機関が多く、把握が難しいですとか、対象者にかかわる機関がそれぞれの支援を行うので、支援が途切れ途切れになっているといったご意見、それから、相談窓口の一本化が必要、関係機関がどのような受け入れができるのか情報交換が必要といったご意見がありました。また、福祉現場での医療従事者の不足、それから、丸の3つ目ですけれども、幼稚園、保育園、短期入所、通所施設、

放課後等の利用可能な施設が少ない。その下の矢印では、あっても希望どおりのサービスがないですとか、看護師が常勤する保育園、幼稚園が少ない、それから、メディカルショートステイは急な夜間や週末における対応が困難といったご意見が挙がっていました。その次に、家族へのサポート体制が継続できないといったところでは、個別に都度対応するので、なかなかノウハウが蓄積せず次につながらないといったご意見、それから、最後の丸のところでは、外出困難児へのサポート体制が不足ということで、訪問療育の体制がないですとか、通院先が遠く、往復送迎が介護者の負担になってしまっているといったご意見がありました。

裏面に進んでいただきまして、②人材育成のところですが、小児の在宅医、医療的ケアに対応可能な人材の不足ということで、小児科医にとっては在宅医療は未知の分野といったご意見ですとか、3つ目の矢印で、内科医との連携が不足している、小児科から成人期への移行がスムーズにいかない、小児対応可能な訪問看護、ヘルパー事業所、相談事業所、生活介護事業所が少ないといったご意見がありました。その次の丸はコーディネーターの不在ということで、母親が直接依頼や調整をしているだとか、矢印の5つ目ですが、医療・子育てから福祉へ引き継ぐときに、両親が障害受容できていないケースが多く、コーディネーターが不在となる、それからその次、医療、福祉、教育それぞれにコーディネーターを通じて一貫して相談に乗り、支援を行う担当者をつくりづらい、各担当部署が独立しており、すべてのライフステージを通じて一貫して相談に乗り、支援を行う担当者をつくりづらいといったご意見がありました。

また、③番で情報の活用ですとか、④番のその他、連絡会議が個人の能力に頼らないシステムとして機能するとよいといったご意見もございました。

その次、資料3になります。先ほどご説明したとおり、委員の皆様からご提案いただいた取組内容を大まかにグループ分けして記載している一覧になります。一番上のところに項目が書いてありますけれども、番号、課題区分、項目、内容、提案機関・主たる機関（案）、こちらの提案機関につきましては、提案機関と主たる機関というのがイコールになるケースとならないケースがある可能性がございますので、あわせて協議、話し合っていていただければと考えております。その次が、協力を得たい関係機関（例）ということで、括弧で記載したものについては、委員の皆様の所属団体以外の所属を实际挙げていただいているところもありますので、そちらについては括弧書きで記載しております。一番右がスケジュールイメージということで記載しております。

課題区分については大きく7つの項目に分けてまとめております。体制構築からスタートしてコーディネート、人材育成、資源把握、普及啓発、情報集約、その他となっております。皆様に直接記載いただいた様式については、参考資料3に添付しておりますので、適宜ごらんいただければと思います。

事務局からの説明は以上になります。

(星野座長)

ありがとうございました。以上の部分で何かご質問、ご意見はありますでしょうか。よろしいですか。

では、今説明いただいた資料3をもとに、この先の議論を進めていこうと思うのですが、これは実は資料として先に見せていただいてすごく驚いたのですけれども、とてもたくさんのご意見を皆さんからいただいて、きっとこの先うまく話し合っていけばいい話し合いのなるのではないかと思います。ただ、すごくたくさんご意見をいただいたので、どうまとめていったらいいだろうというのをちょっと迷ってしまして、体制構築の話とコーディネート、この2つの話はとても大きな話題なのと大事なことで、できればしっかり時間をかけたいなと思って、逆に2枚目の部分から話に入っていきたいなと考えています。なので、この資料3の2枚目をめくっていただいてよろしいでしょうか。この2枚目の資料を見て、この中を上から順番に考えていこうと思うのですが、よろしいでしょうか。

まず人材育成という話、これは皆さんからたくさんご意見、課題をいただいていると思うのですが、ここに関して話を始めていくに当たって、ふたばらいふさんが少し調査ですか、されているので、そこら辺から話の切り口を始めたいと思うのですが、どうでしょうか。少しお話しいただけますでしょうか。

(廻島委員)

訪問看護ステーションふたばらいふの廻島と申します。よろしくお願いします。

参考資料4というところにアンケートのお願いということで入れていただいているのですが、厚木市には厚木医療福祉連絡協議会というものがありまして、医師会、歯科医師会、訪問看護部会、ケアマネジャー部会、摂食嚥下部会、いろいろな部会が単独で動いていて、それをまとめた、医療と福祉が連携を取っている、そういう会議があります。

その中の訪問看護部会ということで、これは厚木市と愛川町の訪問看護ステーションと、あと開業医の先生とかのところで訪問看護をしているところが集まって訪問看護部会というのがありまして、年に2～3回研修をしています。その中で、今年度ちょうど私はこの中の役員をやらせていただいております、今年度のテーマを小児訪問看護にしようということでこの1年取り組んでいます。第1回は松井さんに講義をしていただいて、厚木市の福祉についてみんなで勉強しまして、2回目は今堀さんに講義をしていただく予定なのですが、この間雪で中止になってしまったので、今また再検討しているところです。この会議に取り上げられたということで、その1回目の研修をする前に、各事業所にアンケートをとりました。実際にどのぐらい厚木市の訪問看護の事業所の中で受け入れているのかアンケートをとったので、ご参考になるかなと思って今回提出させていただきました。

見ていただければわかると思うのですが、最初に小児訪問看護を行っていますかということで、受け入れているところが6カ所、受け入れていないところが6カ所。スタッフは何人ですか、医療ケアが必要な患者は何人いますか、どんな内容を行っていますかという

こと。小児の訪問で何が難しいのかというところでは、他機関との連携や、小児の訪問看護というどうしても長時間対応をしたりとか、入院すると長くなってしまったりとかというところでスケジュール管理が大変だったり、病気をお持ちのお子さんのお母さんとかご家族というのはとてもナーバスになっているところがあるので、そういうところと関係をとっていったり。あと、訪問看護の加算というところで、大人の例えば介護保険とかですと連携加算とかそういうのがあるのですが、小児は連携先がすごく多いにもかかわらず、なかなかそこを評価するものがないというところもあるのかなということが挙がってきました。そのほかに知りたい情報は何かということでこのようなお答えをいただきまして、それをもとにまた研修を行っていこうかなと思っているところです。

(星野座長)

ありがとうございます。これは訪問看護師さん向けの研修と思えばよろしいですか。

(廻島委員)

そうですね。スタッフ研修という形です。

(星野座長)

要するに、訪問看護部会の中で自分たちで勉強し合っていこうという展開ですね。

(廻島委員)

もちろん外部の方も呼んで来ていただいたりということで、去年は精神科訪問看護だったりとか、その年ごとにテーマを決めて取り組んでいます。

(星野座長)

ありがとうございます。同じ訪問看護の今堀さんから追加というかご意見があれば。

(今堀委員)

この小児に関しては、訪問看護ステーションでも、どうしても抵抗感を持つ人がスタッフの中にもとても多いというのが現状で、厚木市の中でも子供を受け入れるステーションというのが本当に限られている中で、数年前にも一回、子供の訪問看護の実際みたいな感じで発表させていただいて、そこから1カ所が2カ所になり、2カ所が3カ所になりと少しずつはふえているのですが、それでもやはり今回のアンケートでも不安点だとか、この辺がわからないといった抵抗感もちょっと見られていて、今回はその連携だとか、そこに着目した内容で話をさせてもらおうかなという研修になっています。病態的なものというよりは、どちらかというと連携が主になっていくというところで、今後多分このような感じの取組をステーション間でもやっていくのかなというところです。

(廻島委員)

小児の訪問看護に取り組むに当たって、もみじさんなんかは本当に厚木の中で長く信頼を受けてやっているのですが、そのノウハウですとか、どうやって小児の訪問看護に取り組んで、どういうところと連携をとって、どのように利用者さんと関係をつくってというところは、やはり経験が少ない中でやっていくのはすごく難しいなと思うので、その辺の

こういうふうに行ってきましたというところをみんなで聞きたいなということで、次回の研修を企画しているところです。

(星野座長)

ありがとうございます。もう既に訪問看護ステーションさんは大分自分たちの中で連携をとりながら研修会をされているということですから、ほかの分野の方々からご意見やご質問があればと思うのですが。もしあれでしたら講師として呼ばれた松井さんとかどうでしょうか。

(松井委員)

基幹相談支援センターの松井です。以前から医療ケアのあるお子さんの相談というのは、基幹ですとかそれ以前の委託相談のときから多くいただいております、その中でやはり中心にかかわってくださっているのが保健師さんと訪問看護ステーションのナースというところで、なかなかそこから福祉のほうに引き継ぐときに、看護師さんなんかもその地域の福祉の状況というのがわからないということで、その引き継ぎがもう少しスムーズに行けたらいいねということで、少しずつ個別のケースを通じて訪問看護ステーションさんですとか保健師さんとながってきた、その中でぜひ研修をと言ってくださったので、私たちとしては、福祉として引き継ぐ意欲がありますというか、そういう気持ちがあります。そこまでの間を訪問看護師さんに支えていただければ、そこで今このお子さんと家族が助かっているということで、本当にお互い連携できればということで、ぜひ引き受けさせてくださいということで、微力ながら研修をさせてもらって、そこで直接訪問看護師さんなんかとお話をして、こういうバックアップがあれば受けてみようかなと思っているということも聞けたので、すごく有効な時間を過ごすことができました。

(星野座長)

ありがとうございます。既に大分しっかり連携をとり始めて研修をやられているような気がします。きょうはてだすけの中村さんがいらっしゃらないのであれですが、ここは行政の保健や福祉の方から、今後の展望に関して行政側からのご意見があればうれしいのですが、どうでしょうか。永島さん、どうでしょう。

(永島委員)

厚木市役所福祉総務課の永島です。よろしくお願いします。福祉総務課発達支援係のほうでも、医療ケアのあるお子さんで在宅生活をしているお子さんがいますが、実際にその方の相談というのは本当に1名から2名ということで、重度の方というのはたんぽぽ教室を評価に含めた中で非常に少ない状態であります。そういう中で今、訪問看護ステーション、松井さんがおっしゃいました、一番最初の市の療育というのは健康づくり課を初め福祉総務課のほうで対応します。そういう中で、地域の研修会を含めた中で何ができるかというのを今後考えていけないといけないかなと思っています。こんな形で申しわけありませんが、よろしくお願いします。

(星野座長)

ありがとうございます。そうしたら、それ以外の例えば障害福祉の方、あるいは健康づくり課の方からももしよければ一言ご意見をいただいて、できれば行政のバックアップをとっていただけるとうれしいなという気もするのですが。

(永島委員)

済みません、バックアップという話がありましたけれども、行政の人間は事務屋が非常に多いので、どういう形のバックアップかというのを具体的に言ってもらわないとなかなか動けないというのが実際あります。そのバックアップは、具体的に何をもってバックアップなのかというのがわからないのですが。

(星野座長)

何かをやれと言ったつもりはないのですが、例えば見守っていてくださるだけでもいいのかもしれないですし、今おっしゃってくださったように、何をやったらいいかわからないと言っているの、そうしたら、こういうふうに手伝ってもらえると嬉しいと言ってくれるのもいいかもしれませんね。ありがとうございます。

どういうふうにしたらいいいかわからないというのは、率直ですごくいい意見ではないかなと僕自身は思ったのですが、どうですか、お二人の方から。そういうつながりをお願いします。

(今堀委員)

実際に、前回の小児の発表をさせていただいたときも来ていただいて、懇談会だとかをやってお母さんたちの生の声を聞いていただきたいということにも来ていただいてというところで、本当に生の声を聞いていただけて、その中で多分障害福祉としてだとか、そういう立場で何ができるのかなというところを考えて実現してきたものがたしかあると思うので、十分なバックアップをいつもいただいていると思っています。

(星野座長)

ごめんなさい、僕の認識が不足していて、どのようなかかわりを持っていらっしゃるのか知らなかったのですが、十分やってくださっているということですね。わかりました。

さっきのアンケートの中で、主治医とか他機関との連携がちょっとまだというご意見があったようなのですが、医療の立場からのかかわりはどうでしょうか。

(伊東委員)

医療のほうからですか。日々の診療に追われてなかなかできないというところと、これから先こういったところはどうしても必要になってきますので、やっていかなければいけないなと思っています。あとはやはり一番の最初の医療ですかね、最初のかかわりを持った先生と患者、家族との関係、そこに新しく訪問医療ですかね、そういったところに介入していく先生がどのように信頼関係を築いていくのか、これはとても大切なことだと思います。特に設備の整った集中治療ができる病院から、そういったところまでできない病院

に追い出されたとか、診てもらえなくなったとか、そういう気持ちを持っている方もいると思いますし、実際に助けてもらったという先生から、近所にいる先生を信頼していただけるか、そういう信頼感の構築というのがとても大切なかなと思っています。それが一つ。

それから、信頼感を得るためにどうしても必要なことというのは、現状のお子さんの状態を家族がどれだけ受け入れてくださるか。必ずこの病気は治ります、先生何とか治してくださいと言われると、在宅医療につなぐときというのは非常に難しい状態になるのかなと、過去の経験から思っています。だんだんおつき合いが長くなってくると、ああ、うちの子ってこんな感じなんだ、しゃべれないけど笑顔はすてきだなとか、そういうふうに言ってもらえる、そういうのが一つ二つふえてきたら、少し関係ができるかなと思っています。医療的な点というよりは、患者さんとの信頼関係というのがとても大切ではないかと思っています。

（星野座長）

ありがとうございます。ちょっと話が変わりますが、その下の17番のところに学校内研修の話が少し出ていましたので、座間養護の先生のほうから。

座間養護学校の河又と申します。こちらに書かせていただいたのは、私も含めてなのですが、学校の先生は非常に勉強不足のところがあり、こういう組織体のことや、どういった人たちが子供さんにかかわっていただいているかというのが、知らない先生がすごい大勢いらっしゃいます。今の訪問看護さんもそうですけれども、実際にその子にどの訪問看護さんが来ていただいている、どういうことをケアしてもらっているかなど、直接のかかわりについてはわかるのですが、その組織がどのような仕組みになっていて、どこと連携して関係性ができているとか、相談支援事業者さんがどのように入っているかというのは、我々のような教育相談コーディネーター的な役割をしている教員は何となくわかっているのですが、一般の先生方はほとんど知らないのです。ですから、そういった意味で学校の中の先生方に、こういった形で皆さんがいろいろなことを話し合っていることも含めてですけれども、福祉、医療、療育等がどのような形でお子さんたちに携わっているかというのを勉強する機会をつくっていかねばいけないということで、ここには書かせていただいています。

（星野座長）

それは、例えば協力を得たい関係機関の中にゆいはあとさんの名前を挙げていただいていますけれども、今後何かうまくやっていけそうな状況とかは構築されているのでしょうか。

（河又委員）

個々の生徒のケースについてはいろいろな形でゆいはあとさんに入らせていただけて連携させていただけていますが、そういった面で、もしよろしければ研修の依頼等を出させて

いただいて、お話を聞かせていただくという機会をつくらせていただけたらありがたいなと考えています。

(星野座長)

わかりました。ありがとうございます。そうすると、今のお話と、先ほどの訪問看護の中での研修会とあわせて、厚木は大分もう既に人材育成、まだ不足かもしれませんが、人材育成に向けての取組は既に進みつつあると思ってもいいように感じました。これはこのまま、それぞれうまく連携しながら発展させていただければと思いますので、今後の取組をまた期待することにして、この議題は次に進めさせていただこうと思います。

次に挙がっているのが資源把握ということなのですが、ここも訪問看護ステーション2つから、厚木市などの協力をもらいながら進めていったらどうだろうというふうに話題提供をいただいているのですが、これとあわせて2人の方に少しお話いただけますでしょうか。

(廻島委員)

うちのステーションはもみじさんと違って本当にまだ取組を始めたところで、お母さんとの関係とか探り探りで確立もされていない中、今堀さんとかにもご相談しながら取り組んでいるところで、まだこれから経験していく部分なのですが、ステーションの連絡協議会がありますので、どういうところで受け入れてくれるだろうというのは、あちこちのステーションからお話を聞いたり、ゆいはあとさんに聞いたりするのですが、実際にどこがどのように受けてくれていて、どうしてもきょうだいの行事のときに出られないとか、授業参観に行けないとか、運動会に出られないとか、そういうことが多くあるので、その辺のところを訪問看護師が全部情報提供するのではなく、市で障害を持っているお子さんはたくさんいらっしゃると思うので、訪問看護ステーションを使っている、使っていない、どこを使っているということではなく、すべての障害を持って取り組んでいるお母さんたちが情報を得られるような、均等に利用できるような状況がくれたらいいのかなと思って提案させていただきました。

(今堀委員)

私のほうで挙げたのは、放課後デイサービスと生活介護事業のことでの実態調査というところなのですが、うちの訪問看護ステーションもみじのほうでは、多機能型事業所というものを1事業設けていまして、あそこは訪問看護を利用されている利用者さんが主に使っている事業所になるのですが、やはり医療ケアがあるということで使える場所が限定されてきてしまったりとか、あとはうちも定員5名でどうしてもちゃんと目が行き届くようにというところなのですが、養護学校から卒業してくるお子さんを今後受け入れるだけのものは多分もうなくなってきていて、そこが厚木市の中で今どれくらいあるのか、そこをこれからふやしていかなければいけないのだと思うのですが、そのふやしていこうと思うに当たっては、それぞれの経営がやはり安定しない限りは、どこか踏み出していこう

というところはまずないのかなと思うと、ほかのところの状況というのを調査した上で、今後どのようにしていかなければいけないのかというところを行政のほうと一緒に考えていけたらということで挙げています。

(星野座長)

わかりました。この辺は何か情報を厚木市さんは持っていらっしゃるのでしょうか。今の時点で。これはどなたに聞けばいいのかちょっとわからないのですが。松井さん、わかりますか。

(松井委員)

厚木市内にどのようなニーズがあって、どのような事業所が不足しているのか、なかなかその経営実態までは相談のほうでも調査というのは難しいのですが、ニーズとそれに不足しているものというのは、相談機関として本当に始めたばかりなのですけれども、これから調査とまではもしかしたらいらないかもしれませんが、把握していく必要があると考えています。相談支援事業所のほうでも一遍にはできないので、まずは放課後等デイサービスなどについて医療ケアの必要なお子さんが、どのぐらいのニーズの方が希望していて、事業所としてはあとどのぐらい受けられるのか、既存の放課後等デイサービスについてはどのような配慮というかアドバイスとかそういったものがあればお子さんを受け入れることができるのかといったことは、少しずつ始めていきたいと思っています。

(星野座長)

ありがとうございました。似たようなことを、児相のほうでもニーズ調査があっているのではないかということが書かれているのですが。

(尾本委員)

厚木児童相談所の尾本です。こちらに書かせていただいた以前に、児童相談所が在宅の小児医療を必要とする方にどういったことができるのかというのが非常に未知なのです。正直に言ってしまうと、やれることはほぼないのです。いろいろな在宅のというところが市町村のほうにのりていっている中で、ここの場でどういったことができるのだろうかということを確認していくというのが、こちらに参加させていただいている大きな意味かなと思っています。その上で、前回の宿題の中で何が提案できるか、一つ二つピックアップして考えさせていただいた中でこちらは書かせていただきました。社会資源というのはそれなりにあるけれども、3年に一度とかの判定でお会いする親御さんからは、ああいうものがない、こういうものがない、こういうふうになってほしいということが時々伺える。実際にサービスはあるけれども、利用するご家族、本人にとって必要なというところが、少し制度と実態とでずれているところがあるのではないかと感じる場所があったので、どこがやる、うちがやるということではなくて、少しその辺は利用する方の視点からサービスというものを見ていく必要も一方ではあるのかなというところで書かせていただいています。

(星野座長)

ありがとうございます。そうすると、皆さんの話だと、ニーズ調査にしても資源調査にしても、やはり必要だろうと。ただ、手も足りないし、どこかから、さっきの話では放課後デイあたりからという話でしたけれども、そこら辺から手をつけながら少しずつやる方向で、既にもうこれも、さっきの話ではないけど考えていらっしゃるというふうに受け取ってよろしいでしょうかね。では、これも先ほどの話と同じで、今後にちょっと期待するという形で、今後のことを見させていただければと思います。

次に行って、普及啓発というところで幾つかご意見をいただいていますけれども、健康づくり課さんからご意見がありそうなので、お願いできますでしょうか。

(吉富委員)

厚木市健康づくり課吉富です。厚木市は、子育て支援サービスはかなりいろいろなメニューがあるかなと感じてはいるのですが、それをいざ在宅医療をされている方に当てはめようとしたときには、やはりかなり抵抗感があって、なかなかサービスにはつながっていないというところがあります。妊娠期から子育て期までの相談を健康づくり課のほうで受けていくという中で、健康づくり課には継続看護等の報告も医療機関からいろいろいただきますので、そういう中でもいろいろ調整していく中で子育て支援サービスの中ではなかなか難しいところがあります。重度の方の対応は看護師職がいないので難しいと思うのですが、いろいろな部分で医療にかかわっているお子さんがいらっしゃるかと思うので、そこら辺についていろいろ子育て支援の事業をやっているところに、こういうお子さんが地域の中にいらっしゃってというところで支援をしていかなければいけないのかなと。例えば子育て支援センター一つ使うにもお母さんたちはかなり躊躇されて、行っているのかな、どうかなというところで悩んでいらっしゃったりする方も確かに今までいらっしゃったので、例えば酸素を使っていらっしゃったりとか、そういうお母さんたちも支援サービスの中で受け入れてもらって、ほかのお子さんたちと一緒に使えるような、お母さんたちが生活しやすいような状況をつくっていったらあげなければいけないのかなというところで、こちらを書かせていただきました。

(星野座長)

ありがとうございます。とても心強いお話です。あわせて、障害福祉課のほうから保健・福祉ガイドブックのお話をいただいていますので、ご説明いただけますでしょうか。

(眞田委員)

厚木市障害福祉課眞田と申します。私も厚木市障害福祉課では、前回の会議で挙げられた課題改善に向け、実行できると思われる内容を挙げさせていただきました。その中の一つとしまして、利用できる制度等の普及啓発として、当事者の声を参考にしながら作成した「在宅でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック」、本日配付されておりますが、その中身をより充実した内容としまして、対象の方々への配布や市ホームページに

掲載等することで、利用できる制度、相談できる機関等について広く周知したいと考えております。特に、NICU退院直後の方々は、制度や相談先についてわからないことが多く、情報を必要としていると思いますので、入院している医療機関等の協力を得て配布できればと考えております。また、その他の機関でも新たにかかわるようになった方や、既にかかわっている方で制度の情報等を必要としている方がいらっしゃった場合は配布していただくなど、ご協力いただければと思っております。以上です。

（星野座長）

ありがとうございます。僕から聞くのもあれなのですが、これはバージョンアップを予定しているということですね。

（眞田委員）

そうですね。こちら、作成したのは平成24年度ということになっておりまして、制度の改正や使える制度について追加されたものもありますので、それらを含めたものに改訂したいと考えております。

（星野座長）

まだ具体的にいつごろというわけではないのですか。

（眞田委員）

そうですね。まだ具体的ではないのですけれども、進めていきたいと思います。

（星野座長）

これはどのぐらい普及されているのでしょうか。厚木の中のことがわからないので。結構皆さんにご利用いただいている手ごたえですか。

（眞田委員）

こちらは平成24年度に、厚木市、愛川町、清川村の障害者協議会によって作成されたものになっていて、その協議会の中で、配布方法等については各市町村等という話になってからは余り進んでいないという状況にはなっておりますので、それらも含めて進捗させていきたいと思います。

（星野座長）

わかりました。ありがとうございます。先ほどの健康づくり課さんとの連携も含めて、今後これをうまく利用できるといいですね。とても簡潔にいろいろなことが書いてあって、うまく利用できればいいのではないかなと思うので、ぜひ厚木の中で広めていただければと思います。

きょう僕は1冊だけ本を持ってきて、これのもう少し内容が濃くなったようなものなのですが、どこに行ったかな。今回っているかもしれません。それです。もしよかったら皆さんも参考にいただければと思いますが、杉並区のお母さんたちのみかんぐみというグループがつくった本をもとにして、つい先日出版されたもの（『おうちで暮らすガイドブック』）です。

ありがとうございます。ぜひこれは今後うまく使っていけるといいなと思いました。

その次に、情報集約という話で、座間養護さんから、マイサポートブックのお話が出ているようなので、このことについてお話しいただけますでしょうか。

(河又委員)

(河又委員)

座間養護学校のほうから。課題としては、PTAからも挙がっていた内容ではあるのですが、要するにライフステージをずっと通じて一貫してお子さんの状況とかを伝えていくためのものがあればありがたいというお話がありました。それで調べさせていただいたのですが、厚木にはマイサポートブックというものがあるということで、先ほど資料として配られているかと思います。もう一つ資料として、とじ込んである資料の後ろから2枚目、3枚目のところに「ばざばのあんしんノート引き継ぎ書」というものがあると思います。このばざばというのは、横浜の重心グループ連絡会のばざばネットというところにつくったあんしんノートになります。こちらの内容は、重心の方に対応するための内容が書かれているということもありまして、医療ケアはどういったものが必要だとか、あるいは食事の介助のときにはどういったことが必要になるかとか、そういったことも書き込めるようにつくられています。厚木のマイサポートブックについても成長段階に合わせて、生まれたときから、幼稚園、小学校、中学校、高校、成人期と、ずっとサポートする形でつくられている状況ではあるのですが、やはり重心の方に対応するということになると違ってくる部分もあるので、そういう意味ではこのマイサポートブックをもとにした形で、ばざばさんがつくっているものとかをモデルにしながら、重心の方に対応できるようなものをバージョン的につくったらどうだろうかということで、ここに挙げさせていただいているところです。

(星野座長)

ありがとうございます。これはもともと障害福祉さんとかでつくられているのですか。ゆいはあとさんでつくられているのですか。何かゆいはあとさんからありますか。

(松井委員)

ゆいはあと基幹相談支援センターは、厚木市障害者協議会の事務局もさせていただいているので、その障害者協議会の中の一貫した子育てプロジェクトという中で、このマイサポートブックをつくりました。以前このガイドブックをつくったときの、3市町村で協議会をしているときからマイサポートブックというのはあったのですが、その3市町村協議会が分かれたことで、その後のマイサポートブックのほうは各市町村で改良などを重ねてくださいということで引き継ぎを受けて、今年度これが完成しました。これは、マイサポートブックと書いてあるものと、サポートキットというものの、2冊に分かれています。この最初のサポートキットと書いていないほう、マイサポートブックというほうは、障害受容がまだできていないような、発達障害なども含めたりして、そういうお母さん、ご家

族でも書けるように、余り障害というものがクローズアップされないような形で、早い段階から渡せるようなものとしてつくってあります。サポートキットのほうに移っていくと、お母さんのほうがもう受容を始めて、いろいろな支援機関を使っていこうかなということも書けるような形で分かれています。これは、お母さんだけが書くというものではなくて、広く普及したときには、かかわっていらっしゃる訪問看護師さんであったり保健師さんであったり、学校に上がったら学校の先生であったり療育の機関であったり、いろいろな人が手伝って書いてあげたりできればいいなと思っています。あとは、ご本人に合わせてカスタマイズしていくということも一ついいかなと思っています。なので、これを利用するときの提案としては、お子さんに合わせた何かすてきなファイルか何かにとじて、必要な情報をどんどん挟み込んでいく、要らないところは書かなくていいよというように、個人でカスタマイズしていくのも一つ手段ですよという形で進めていけたらいいなと思っていますし、このサポートブック自体もこれで完成ではなくて、何年かに一度きちんと改良して、必要な項目などを精査できればいいかなと思っています。

(星野座長)

ありがとうございます。とてもすてきなサポートブックですね。驚きました。いろいろなことを考えてつくられて、こういうのがあると、こども医療センターに勤めていて、入院するたびにご家族がいろいろなことを書いたり話したりしなければいけなくて、それがご家族のすごい負担になっていると思うので、こういうのをうまく地域で利用できると、これを出せばもう話をしなくても済むというとてもいいですね。これはさっき見せていただいたら、ホームページからダウンロードできるようになっているみたいですね。ばさばのほうもホームページからダウンロードできるようになっていますが、こちらは成年後見人制度あたりまで踏み込んだ内容になっているので、これはこれですごいなと思っています。ぜひ活用できるといいですね。ありがとうございます。余りこの会議をやる必要がないぐらいにいろいろなことが既に取り組みされているなというふうに感じております。

今の件に関して、関係の方々からもしご意見があれば。

(三澤委員)

私もちょっと前からこれを知ってというか、うちは今、高校1年生なので、これを目にするのは最近の話で、私も書いてみたのですが、今からだとちょっと書けない部分が医療ケア時には多かったなという点もありました。座間養護学校では、入学とともに同じようなものがあって、さっきのファイルにどんどん積み重ねていってという、今これを使っているのはたんぽぽとかひよこに行っている子たちで、私たちの時代にはなかったのですごくいいなというのもあって、小学校に入ってから、座間養護学校ではピンクファイルというのがあって、保護者がいつも管理していて、そこにうちは小学校1年生から入っているので、小学校1年生から同じような内容のプロフィールを親が書いたものがファイルされてあって、補装具とか学校の評価、学校で何に取り組んでいるかというのが全部あって、

今、高等部なのでかなり厚くなってきて、それにすべてというか、薬の名前からかかっている病院からリハビリからすべて書いてあります。すごくわかりやすく、先生と一緒にそれを毎年見直したりして、面談時にはいつもそれを持っていくという学校の流れがあります。家と学校ではすごく大活躍なものなので、それを実際外に、学校と保護者としてはそれを外に出していきたくないとずっと言っているのですが、これを一回も外で出して、見て何か進めましょうということが今まで経験上ないので、ぜひそれを病院とかショートステイとかデイサービスとかで利用できるようにしていけたらと思います。本当にこういうのもたくさんあって、学校でもあって、いいものが手元にもあるのです。うちでは10年積み上げてきたものがあるので、例えば地域の小児科とかでも緊急時にそれを持っていったらここの小児科にかかるとか、市立病院にふだんかかっているのだけれども、救急のときはそれを持っていったら何か参考になるというのも、提示したら拒否はされないのですが、そういうのを知っていてほしいなというのが、親としては今の現状の意見かなというので言わせていただきました。

(星野座長)

ありがとうございます。現状ではまだやはり知られている感触がないということですね。

(三澤委員)

そうですね。実感はないというか、ショートステイなのですが、他市に行くときに出したことがあるのですが、やはりそこにはその施設の書式があるので、それに結局書いてくださいということで、生まれたときから書いて出すという一般的な流れが多くて、私はそれを学校と話をしていたので持っては行ったのですが、やはり活用できなかったなというのがあります。学校以外で今のところそれ以降出したことはないので何ともいえませんが、知っているのは多分学校にいる保護者と先生方しか知らないのが現状なのかなというので、これも含めていろいろな方が知って、こういうのがあるんだよというと、ひよこ園から来た子たちはこれを持って多分学校にも入るでしょうし、今後ずっと続けていかれるすてきなものにもっとなるのかなと思いますが、今は実際使われていないのが現状かなというところです。

(星野座長)

ありがとうございます。

(蒔田委員)

私も今、見せていただいてすばらしいものだと思いますが、私がかかわっている方は成人になってからの方が多いのですけれども、小さいときから障害を持っている方が二十歳になると障害者年金の手続をするというときに、医療機関で先生が書くことのほかに、家族というかご本人が書く書類があるのですね。それを、本当に小さいときからお母様が日記をつけていらっしゃる方は、それをめくりながらあのときこうだった、どこの病院にかかった、あのときこうしたというのを皆さん本当に振り返りながら書かれているのですが、

重度のお子さんについてはもしかしたら医療機関に残っているものもあるかもしれませんが、先日、ずっと障害手帳4級の方が、途中で状態が悪くなって成人になられてから障害者年金の手続をするというときに、小さいときにどういう病院にかかったかというのがなかなか残ってなくて、それを相談支援事業所の方が一緒にいろいろ訪問して、かつての病院のカルテを見たりとか、そういうお手伝いをしながらようやく年金にたどり着けたという方がいらっしゃったのです。ですので、小さいときから何か病院にかかったり、障害の履歴があったり、補装具をつくったことのある方については、こういうものを活用していただいて、すぐには使わないかもしれないけれども、学校などで皆さんにこういうものを案内していただけると、いずれは使えるときが来るのかなと思いました。

(星野座長)

ありがとうございます。この件に関してどなたかほかにご意見とか。これはとても大事な気がします。とりあえずご意見はよろしいでしょうか。

(河又委員)

今、三澤さんからお話のあったピンクファイルですが、それは要するに学校独自の書式ということになるのですよね。ですから、養護学校に入るとその書式で書いてもらっているのが、小学部から入った場合には高等部卒業までなので、6・3・3の12年間それを積み重ねていくことになります。それがまた外に出るとなると、先ほどお話ししたように書式が違うということで変えなければならぬ。療育のときから書き始めて、それがまた学校に入るときに学校の書式でまた書き直してもらわなければいけないという状況があるわけですね。ですから、その部分で考えると、その引き継ぎのところでその書式がある程度統一されていくということも最終的には、今の時点ですぐには難しいことなのですが、最終的にはそういうところを見ていかないと、お母様方の負担というのは変わらないのかなと思います。ですから、このサポートブックもそうですし、学校のピンクファイルもそうですし、その辺の内容についてはどういったところが連携できるのかというのは、やはり見ていかなければいけないのだらうかと、ちょっと個人的な意見ですが、そのように考えているところはあります。

(星野座長)

ありがとうございます。病院の立場でいうともう大分病院は電子カルテ化されているので、決まった紙に書いていただく必要がもしかしたらないかもしれないので預かって、いずれにしても結局はどこかで職員が打ちこまなければいけないので、内容が統一できていればもしかしたら比較的病院は受け入れやすいですか、どうですかね。

(伊東委員)

今までかかわってきた時間が多ければ多いほど情報は多くなります。私もいろいろな患者さんの相談を受けたときに、施設に入っていた患者さんを引き受けるときに山のような書類をいただいて、確かに細かく書いてあるのですが、どこが大切かわからないという、

そこもあるのです。ですので、必要最小限のファイル、情報、これも同時に整えていかなければいけないと思います。発達の心配のあるお子さんに関してはそういった決まった書式はないのですが、いわゆる健常といわれる方には母子手帳があるわけです。それに障害に合わせたそういう母子手帳のような簡単なものがあると、我々もわかりやすいかなとは思いますが。確かに情報が物すごい多いと、じゃあ全部コピーしておいてというと、本当にどこが大切かわからなくなる。電子カルテに取り込んだときに、全部電子カルテの中に画像として入ってくるとめくれないのです。検索もできない。ですので、やはり最終的にはキーボードを使って打ち込まなければいけない。そのときには必要最低限のこれだけという情報が入ることになるかと思います。我々もドクターとして仕事をするときに、いかに簡潔にサマリーというまとめをつくるかというのは教育を受けてきていますので、同時に細かいことを書く、それも大切です、どこが大切かというところをポイントで示すというのも同時にやっていく必要があるかと思います。

(星野座長)

ありがとうございます。それもとても大事な話だと思います。

(馬嶋委員)

私もそう思っているのですが、この間の会議から、たまたま保健福祉事務所の方の縁で在宅の方の予防接種をしに行ったりとか、22歳の女性の方の相談をうちの外来で受けたのですが、なかなかその方の病歴を聞くひまがないというより全然聞き取れないところがあって、それでいいのだろうかという思いがあります。医療に関しては、この中で医療の部分が少ないかなという感じも気がするので、もう少し医療のところを、我々はそこを見ればわかるというところがあるといいし、毎回毎回お母さんたちが書いていくというのはとても負担だと思うので、そういうのがこの中に入ってくると本当にうれしいと思います。

(星野座長)

ありがとうございます。では、この部分、できればいろいろな分野の人と相談しながら、もう少しというかもっといいものになっていくと本当にいいなと思います。どうぞ。

(尾本委員)

私は自立支援協議会だけでなく、ほかの市町村の部分にも出させていただいている中で、やはり同じように、どうやったらほかで活用してもらえるのかというようなところがすごく課題になるのです。その中で、一遍に全部の事業所というわけにはいかないけれども、協力してもらえる事業所さんに、それがちゃんと使えるという状況をつくって、実際にそれが活用できますという状況をつくっていけるような仕掛けというのですかね。もうこちらの事業所さんはわかっているから、これを持っていけば大丈夫だというような形で少しずつでも広げていけるように具体で、一遍に広がるといいよねではなくて、具体的にこれだったら使えますという形で、少しずつ広げられないかというような取組を考えている市町村さんもあるということをお伝えしたいと思います。

(星野座長)

実際にそういう市町村さんがいらっしゃると。

(尾本委員)

そうなんです。実際にどうやったら使ってもらえるのかという、中身はもちろん精査はしなければならないけど、まず使ってもらうためにはというところで、実際に事業所さんでも使えるように、使ってもらえるようにというのかな、そういうのは事前にちゃんとお話をしてやっていくということになるのだとは思いますが。

(星野座長)

その情報というのはある程度集約されているのですか。

(尾本委員)

その情報というのは。

(星野座長)

どの事業所さんが取り組もうとしてくれているかとか。

(尾本委員)

厚木市は大きいのでたくさんになってしまいますが、割と小規模でこじんまりとしたところだと大体どこにどういった事業所さんがあってというのがわかる中では取り組みやすいだろうというような話はあったりします。規模というところではなかなか難しいところはあると思うけれども、できるところからという取組にはなるのかなと思います。

(星野座長)

わかりました。ありがとうございます。どうぞ。

(吉澤委員)

厚木保健福祉事務所です。今の児相さんの話と重なると思うのですが、自立支援協議会のほうで今度、放課後デイのほうをとりあえず一堂に会して連絡会を初めて持ってみようという話がこの間の会議で出たところだと思います。例えばそういうところで、当然ゆいはあとさんはこのサポートブックを紹介する気持ちでいらっしゃるだろうと思いますが、もっと具体的なところでそれぞれの事業所さんで使っていращやる書式はあるだろうけれども、これにどこかで重ねていくことができないかとか、そのような願いは少しずつ進んでいけるのではないかと、会議に出ていて思ったりしました。

(星野座長)

ありがとうございます。そのように具体的な動きも出てきているということで、とても楽しい感じがします。ほかにご意見はありますか。

(狩野委員)

総合療育相談センターの狩野と申します。厚木のほかに、小田原にも県の機関として出席させていただいています。厚木ではすでにいろいろなことに取り組まれていて、さらに充実させていこうという動きになっていることを感じています。私からは県西の「まいら

いふブック」の取組について、第1回の小田原の資料の一部を回覧させていただきたいと思います。そこでは、出前講座や研修会をしたり、医師会にも回られたりして普及活動やられているようです。こういうほかの機関の情報を集約することはできるかなと思っています。普及啓発の方法や事業所別マップなど工夫がされている部分を、うまく厚木さんのところでやっていらっしゃる部分と重ねてより良いものにしていけるように協力できればと思います。あと、湘南西部のネットワークに出席した時にいただいた平塚保健福祉事務所秦野センターさんの「にこにこシート」も一緒に回覧させていただきます。ライフステージに合わせてこんなことがありますというのを先々に向けて親御さんに説明してお渡しするというものです。毎年度改訂で今、改訂作業中とのことです。こんな形で、他地域の情報提供などの協力をさせていただければと思います。

(星野座長)

ありがとうございました。追加情報ということで、最初のやつは太陽の門さんがつくったやつですね。こういったほかの地域の取組も参考にさせていただきながら、厚木なりのものを広めていただけるととてもいいなという気がします。よろしいでしょうか。

では、多分こういったものを広めていくということに非常に大事な役割をするだろうと思うのが、1ページ目に戻っていただいて体制構築ということになるのではないかなという気がします。先ほどのガイドブックの普及もそうですし、今のサポートブックもそうですけれども、皆がやはり知っていただいたほうがいいのですが、それをどういう形で広めていくかというのに体制構築をどうしていくか。体制構築に関しては、いろいろなところからいろいろな提案を出していただいているのですが、医師会さんのほうで近々にこういった取組を始めていこうという話があるとお聞きしたので、そのことを少し教えていただけますでしょうか。

(馬嶋委員)

最初の回のときに、医師会としてはなかなか在宅にかかわっていないという話をさせていただいたと思うのですが、厚木医師会は在宅の拠点事業を始める中で、小児もその中に入れたいなと私は強く思っています。私は今、医師会長をやっていることと、小児科医であることもあり、地域包括ケアシステムの中に絶対在宅の小児も入っていかなければいけないという思いが強いので、医師会の中でやっていきたいなと思いました。ただ、確かに小児科のパワーがないという部分もあるのですが、勉強会をしながら医者に勧めていくことと、医師会が入っていないとほかのドクターになかなかその話が伝わらないので、ほかのところでやっていくとそこだけで回ってしまって我々医者がわからないで終わってしまう可能性が非常に高いので、やっていきたいなと思っています。その中で、今は全体的な流れなのだけれども、今回どんなことが厚木の中で必要なのだろうかというような、厚木市だけではなく愛川町、清川村も含めた小児の在宅療養連絡会議を皆さんとやっていきたいなと考えています。

こんな簡単でよろしいですか。もう少し話しますか。

(星野座長)

していただけるなら。

(馬嶋委員)

医療の連携の拠点になるところを医師会でやっていきながら、今の話もありますけれども福祉だとか訪問看護も体制ができつつあるので、そこをうまく医師会が連携しながら、医療は我々の中で連携して、それからまた例えばこども医療センターなどとの連携もそういうところでやっていくとか、さっき予防接種の話もしましたけれども、予防接種だけだったら医師会の中でやっていくというのも相談事業として入っていけるのかなと。そうすると、医師会の医者も少しずつ在宅に向けて進んでいけると考えています。

(星野座長)

ありがとうございます。これは、協力をいただきたい関係機関の中に、ここにいらっしゃる方々がずらっと団体名として載っていますが、このあたり、それぞれの団体の方に少し今の医師会さんの動きについて、ご意見なり今後の希望というか、こういう集まりになるといいのではないかということをお話いただければ思うのですが、どうでしょうか。ここに書いてある順番でいいでしょうか。保健福祉事務所さんから。

(吉澤委員)

このお話、実は馬嶋先生から多分最初に保健福祉事務所のほうにいただいております、既に1月にはぜひ1回目の会議を持ちたいということで、ここの委員の皆さんの相当数に担当からお声がけをさせていただいています。保健福祉事務所としては、いろいろな医療機器をつけて在宅にケースが戻ってきたときに、もちろん遠くの専門病院も非常に大事、こども医療センターのバックがなかったらやっていけないと思うのですが、例えば厚木市立病院も受診しないといけないし、でもおうちで往診してくれる場面が欲しいというようなときは、やはり開業医の先生が頼りだと思うのです。そういう部分でなかなか、小児科の先生も今減ってこられている現実の中で、医師会として子供たちも地域包括の中で一緒に考えていきたいと言っていただけで、こんなにありがたいことはないというのが正直な話です。とりあえずは医師会の先生方が医師会の中でそういった取組を進めていくために、必要な情報とかお手伝いとか、そういったことを行政の立場でできることは一緒に進めていきたいというのが今当所の思いです。

(星野座長)

ありがとうございます。次、厚木市とだけ書いてありますが、これはどうでしょう。

(吉富委員)

病院から継続看護をいただいて、専門病院は当然あるのですが、地域の中で、さっき先生がおっしゃっていた予防接種だけしてもらいたいとか、風邪をひいたとか、ぐあいが悪いときだけ診ていただきたいという医療機関を探すのに、今は自分が知っている先生にお

声がけして「先生、診ていただけますか」みたいな感じで診ていただく形になっているのですが、このようにシステムチックになっていくと、そういうことなく、厚木ではこのように先生方に診ていただけるというところでお話ができるので、こういう制度がきちんとできて、市としての受入体制ができると大変ありがたいなと思います。

（星野座長）

ありがとうございます。福祉総務課さんとか、障害福祉課さんはどうでしょう。

（永島委員）

福祉総務課永島です。先ほど馬嶋先生からありました、実際に今、たんぼぼ教室のほうでも医療ケアのあるお子さんが数名通っています。その中で、実際に主治医とどうかかわっていったらいいのかも含めてこういう形で先生たちとお話しできることによって、また踏み込んだ支援や情報交換ができるかなと思っております。今後こういう形で先生と話し合うことによって行政もそうですし、先生方も含めて実際に当事者である方のためにいい方向に進んでいくのではないかなと思っております。以上です。

（星野座長）

ありがとうございます。障害福祉課さん。

（眞田委員）

障害福祉課としては、福祉関係でのお話というのはよくあるのですが、医療機関とのお話というのが、なかなか連携がとれていないというところもあったのですがお話しする機会がなく、ご助言いただきたいということもあったのですがなかなかお声がけにくいということもありましたので、厚木医師会さんのほうからこういったお話をいただいたというのは、厚木市障害福祉課として課題であったことが医師会さんのご助言などで解決できるのではないかなという希望を今持っています。以上です。

（星野座長）

とても期待してくださっているということですね。ありがとうございました。次、市立病院の立場で。

（伊東委員）

医師会と市立病院の関係は切っても切り離せないもので、馬嶋先生から日ごろいろいろなことを教えていただいています。そして、市立病院でできること、医師会の先生方でできること、しっかり役割分担をする、これは大切なことだと思っています。それから、ここに来るまでメディカルショートステイのお話がありましたけれども、メディカルショートステイを市立病院でお受けするシステムを実際にもう運用しています。メディカルショートステイを利用していただく前には必ず1回受診してくださいというような形で、医療情報ですとか、困ったときはどのようにしたらいいですかとか、お母さんお父さんにどんなふうに預かってほしいですかというのは聞くようにしています。在宅医療を進めていくに当たってはメディカルショートステイはどうしても欠かせないものだと思っていますの

で、それをするに当たって一回市立病院に受診していただく。厚木市内にはこれだけのケアが必要な人がいるのだというのは、必ず我々は把握するように心がけています。その上で、どこまで市立病院が診ていけるのか、地元の近所の先生がどこまで診ていただけるのか、それぞれの役割分担ですかね、そういったところをやっていければと思っています。よくも悪くも中心的になる施設だとは思っていますし、我々が積極的に関与していけたらと思っています。そんなところです。

(星野座長)

森田さん、よろしいですか。

(森田委員)

私も8番のケースカンファレンスのところで、できるだけ関係者に来ていただきたいという思いもありますので、顔の見える関係というところでは賛成です。以上です。

(星野座長)

ありがとうございます。訪問看護ステーションのお二方、いかがでしょうか。この会議に向けての期待というか。

(廻島委員)

(廻島委員)

やはり大学病院にふだんかかっていて、そこで予防接種すると値段的に高く、地元の病院に行きたいけれど、この時期に予防接種に具合の悪いお子さんを連れていくということは、そこでまた病気をうつされるのではないかと、階移動するのが大変だという中で、保健師さんからのご紹介ということで来ていただいて、そういう声から先生が動いてくださるのは本当にうれしいなと思っています。市立病院のメディカルショート、さっき書きましたが、今のところ厚木市でメディカルショートに取り組んでいただいているのはすごくありがたいと思うのですが、やはり緊急時ですとか冠婚葬祭ですとか、その線がちょっと使いにくいというのと、一回そうならないと使えないと思っていらっしゃる方もいて、一回預かってもらってからでないと安心して預けられないという声があるのも事実なので、そういう生の声を出して、それに対して具体的にどういう対処ができるのかというのが、私もどこに投げかけていいのかというのがわからない部分なので、このような大きいところでお話ができたらすごく利用者さんのためにもなるのではないかとと思っています。

(今堀委員)

私も医師会でこういう形の活動があるということではすごく心強いと思っています。今まで訪問看護で、大学病院もしくはどこかの医療センターから受けてきました、戻ってきましたといったときに、やはりあちこちで訪問看護の立場からでも福祉の部分、在宅にどうつながるか、地域にどうやってつなげばいいのかというところで、結構最初にばたばたたつくのは実際にあって、そこが全部一緒になってそういう協議会ではないけどそういうものがあるといいなというのはずっと思っていたので、こういうのがシステムのようになって

いくというのは本当に心強いなと思っています。今はだれか見える人にちょっと聞けるとい
う人がいるからいいのですが、それがずっと続いていける体制というのがやはり厚木市
の中では必要だと思っています。

(星野座長)

ありがとうございます。次、座間養護さんと、続けて三澤さんにも。

(河又委員)

座間養護学校です。3番のところに書いてある内容とほとんど一緒なのですが、こちら
のほうは医療の方と一緒にそういった話し合いができる場が欲しいということで、今ある
ところでいくと、厚木市障害者協会の発達支援部会の中に重心の方を検討するところがあ
るので、そこに参加させていただければという形で書かせていただきました。こういった
会議が実際に開催されるのであれば、学校もそこに入れさせていただいて、一緒に話をさ
せていただけるとありがたいなと考えています。そのついでで申しわけないですが、厚木
市の障害者協議会に座間養護は入っていないのです。伊勢原養護学校が入らせていただ
いています。それは学校がいろいろと重なってくると大変なので、座間の場合にはほかにも
座間市や大和市がかかわっていたり、さまざまな地域がかかわっているということで伊勢
原と分担させていただいています。ただ、そういう重心や肢体不自由の方のほとんどが厚
木の方は座間に在籍されているということもあるので、そういった部会のほうにはもしよ
ろしければ参加させていただけるとありがたいということでここに書かせていただいでい
ます。ですから、こういった形で医療の方と一緒に話ができる場というのが引き続きでき
ると非常にありがたいなと思っています。

(星野座長)

ありがとうございます。括弧づけですが、教育委員会さんにも入っていらっしゃるの
かね。ここに今、教育委員会はいらっしゃいませんが、教育委員会も入っているとい
うことですね。

(河又委員)

今は医療ケアにかかっている方で市内の小中学校の方はそれほど多くないと思うので
すが、今後地域の中での生活ということで考えると、養護学校だけではなくて、そういった
地域の小中学校にかかわってくる方が多くなってくるだろうと予測されています。そう
いった意味で、厚木市の教育委員会さんにも入っていただいたほうがいいのではないかと
いうことで書かせていただいています。

(星野座長)

そういう考え方は素晴らしいですね。ありがとうございます。最後になってしまいまし
たが、三澤さんも一言もしありましたら。

(三澤委員)

本当に非常にいいお話だなと思いました。やはりどうしても特定の病院にかかっている

人が多いのかなと。特定のところでしか診てもらっていない人が多いのかなというのはすごく実感していて、それは多分、さっきもお話があったように、もともと大きな病院から来るケースが多いというところで、そこのつながりでどんどん進んでいくしかないというのが現状のかなと。地域の病院で少しでもかかわることが、さっき言った注射もそう、うちもそうですし、ふだんかかっているところでは、きょうだいは違うところ、地域の病院でどこでもかかれるのですが、ケアを持っている子だけはどうしてもいつもかかっている病院でないと心配というのはもうずっと続いていることなので、そこがちょっとずつ地域に出ていくことによって、親としてみればその子を知ってくれている人たちがもっとふえるということはすごく心強いです。緊急時もいまだにあたふたしてしまうし、どこにかかっていいかというところから始まるので。かかったことのないところ、多分先生方も病院側も受け入れたくても受け入れられないだろうなというのわかっているのですが、でもやはり緊急時というのは、どこにかかっていいかわからないというのをいろいろな人に聞けたらいいというのは実感しているし、多くの人にその子を知ってもらうということはすごく大きな進歩だと思うので、それがどんどん広がっていくとすごく住みやすい厚木になるのかなと感じました。やはり遠くの病院が多いというのが、緊急時の対応に不安を感じる人も多いので、地域でまず、変な話電話だけでとか、何回かかかっていれば電話とかで少し様子をうかがうとかできるだけ違うのかなと。今、私がそれを緊急時に考えているところというのは、やはり訪問看護ステーションの看護師さんにどうしても頼るしかないという一本しか道がないので、それが地域に広がっていけばいいなと思うのでぜひよろしくお願いします。

（星野座長）

ありがとうございました。今ほぼ全員の方にお話しいただきましたけれども、皆さんとても期待をしていらっしゃるということなので、ぜひこれはこの期待を受けて、医師会のほうでうまく連絡会をやっていただけるといいなと思います。何か。

（馬嶋委員）

うれしいというか、すごいプレッシャーを感じながらも頑張らなければいけないなと。皆さんに助けていただきながら、医師会のみんなにも協力してもらうような体制をつくっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（星野座長）

ありがとうございます。僕もとてもこの連絡会に期待していききたいと思いますけれども、これは先生、この会議は公開会議になりますか。

（馬嶋委員）

今回はちょっと、いろいろな情報をまず、どんな患者さんがいるのかというところから始めるので、1回目は多分公開にはならないのかなと思いますが、落ちついたらまたお願いしたいと思います。

(星野座長)

いえ、ありがとうございます。ちょっと確認だけしておこうかなと思いました。そうしたら、この体制構築に関しては、まだ見えませんが、ちょっとというかなんか期待を持って見ていけるような気がしました。ありがとうございます。

大分時間も押してきていますけれども、最後に残っている項目としてコーディネートということが書いてあって、これはどこで小児の在宅の話をして、とても大きな課題として挙がってくる話で、今回も複数の方からこのことに関して課題意識を挙げていただいています。多分この課題に関して、きょう残りの時間で話していくのはちょっと難しいのではないかなという気がしますので、課題を挙げていただいた厚木地域の団体の方々から、こういった意味合いを込めて課題として挙げていただいたのかをお聞かせいただいて、議論は次回に回そうと思います。それまでの間に、きょうこれから健康づくり課さん、福祉総務課さん、養護学校さん、保健福祉事務所さん、あと総合療育相談センターさんも入っていますけれども、こういった方々にお話しいただいた内容を受けて、次までにまたそれぞれの中で練ってきていただくといいかなという気がしています。ちょっとこれは簡単に答えが出ないのではないかなと思うので、そんな形にしていきたいと思います。

では、上から順番にお話しいただけますでしょうか。健康づくり課さんから。

(吉富委員)

健康づくり課では、先ほど来お話ししているように、各医療機関のほうから継続看護依頼というのをいただいているのですが、それをいただいたときに利用できるサービスであったりとか、そういうところが私どもも十分わかっていないというところで、お母さんたちのご希望を聞きながら、大体病院さんなので訪問看護だけは病院のほうで調整してくださって、ここが入ってくださいますというのはわかるのですが、それ以外の福祉サービスであるとか、そういうものに関しては、帰ってから一緒に考えてくださいということで退院、地域で受け入れるという形になります。そういう意味で、健康づくり課で持っているところが本当に少ないので、とにかく関係機関にいろいろ情報を聞いて、「お母さん、こんなものもあるみたいよ」と情報提供して、お母さんが利用したいと言えばそこから調整が始まっていくという形になるのですが、そこら辺でまだ健康づくり課としては調整に長けていないというところもあります。小さいときに大体受け入れをするのですが、これから成長していくお子さんはどんどん必要なサービスも変わっていきますので、サービスが変わっていく中でいろいろな調整ができるように、ある程度このぐらいの年齢だったらこういうサービス、例えば小学校に入ったらこういうサービスみたいな形で、標準的にこういう利用できるサービスがありますよみたいなものがあると、お母さんたちにも情報提供がしやすいかなというところもありまして、こういうコーディネート、介護保険というケアマネさんのようなコーディネート機能を持ったところがどこか、一つの機関でなくてもいいのですが、あるとすごくお母さんたちも安心するのかなということでこちらを

書かせていただきました。

（星野座長）

ありがとうございます。今のことで何かご質問、ご意見はありますか。ここでは確認程度にしておいて、議論はまたにしていいただければと思うのですが、なければ次、福祉総務課さん。

（永島委員）

福祉総務課です。主にたんぽぽ教室になりますが、たんぽぽ教室に来るお子さんというのは既に在宅生活をされているお子さんになります。実際には100%ではないのですが、たんぽぽ教室に通う時点で障害者手帳をお持ちです。その中で、障害福祉課との連携にはなるのですが、どこの事業所に行けばいいのかとか、リハビリはどこに行ったらいいのかという相談があります。たんぽぽ教室として持っている情報はお答えするのですが、実際にどこの事業所に行くのか、リハビリはどのくらい受けられるのかというのは医療面と福祉の制度の連携になるので、うちをまたいで次のステップに行くという形になると、先ほど吉富さんからお話があったように、一貫した支援という意味では途切れてしまう点もあったりします。また、医療については情報が非常に少ないというのがうちの弱みでもあるのですが、そういう中でコーディネートがあればお母さんの的にも非常にスムーズなのかなと思って書かせていただきました。以上です。

（星野座長）

ありがとうございます。今のお話に対する確認とかご質問は大丈夫ですか。では、次は座間養護学校さんから。

（河又委員）

先ほどあんしんノートのお話がありましたが、一貫したサービスというか情報の提供ですとか、情報共有していくということを考える場合に、まずは先ほどの療育から学校、学校から福祉というつながりでどうしても切れてしまうところがありますので、年齢に応じた形でそれぞれの相談窓口というものをしっかりと提示できるように整理していく必要性はあるのかなと考えています。特に養護学校は小中高とずっと見ていますけれども、先ほど出てきた市のほうの小中との連携みたいなことも多分出てくると思いますので、そういった意味でどういったコーディネートができるのか、それはどういった人が役割として持っているのかというのを整理していく必要があるかなと思っています。

あともう一点、相談支援事業所と書かせていただいているのですが、まだまだこちらも勉強不足のところがあって、さまざまゆいはあとさんでやっていたところはあるのですが、やはり早い時期からかかわっていただけるとトータルで見えていただける可能性もあるのかなというところで、その辺は相談支援事業所の業務内容ですとかいろいろありますので一概には言えないのですが、その可能性を探っていけるといいのかなというところで書かせていただいております。あとは各機関、年齢別にそれぞれにあります、そ

れをトータルでつなげていっていただけたところがやはりどこか必要だと思いますので、そういった役割も果たしていただけるような可能性を探っていけたらありがたいと思っています。

(星野座長)

ありがとうございました。ご質問、ご確認はありますか。大丈夫ですか。総合療育さんはちょっと飛ばさせていただいて、先に厚木保健福祉事務所さん。

(吉澤委員)

10と11で枠は別なのですが、イメージとしては健康づくり課さんが話してくださったことになんか近いかなと思っています。前回も申し上げましたが、保健福祉事務所のほうは結構、医療機器をつけた子供を事例として実際にずっとサポートしてきているという今までの経過があって、その中で、しっかりできているかどうかはともかくとしてコーディネーター役は担ってここまで来ているというそれなりの思いも持っています。それでやはり医療機器のついていないお子さんですと、障害のあるお子さんでも、例えば療育につながるとたんぽぽさんとかひよこさんで主に見ていただいて、そのまま学校に行くと学校で見えていただいてみたいな流れもあるのですが、医療機器がついていて、特に人工呼吸器がついていたり、気管切開していろいろなケアが必要だとなると、養護学校に上がってもやはり保健の手は切れない。今現実には、座間養護さんに在籍しているお子さんでうちが支援しているケースは何人かいますし、やはりみんな医療機器をつけているお子さんなのです。そうすると、じゃあずっと保健がコーディネートするのかということそれはそうではなくて、ライフステージとか年齢に応じて、保健もかかわってほしいけど、どちらかというとゆいはあとさんとかが中心になって、障害福祉のほうメインで動いてほしいとか、あるいは学校さんが中心になってやっていて、困ったときはちょっと保健所も入ってほしいとか、そういうふうな流れというのがあると思うのです。たんぽぽさんのケースも、たんぽぽ、ひよこでも見られるから、保健所はもう卒業してもいいよというふうに連絡会の中で言われて、じゃあお願いねとバトンタッチする子もいれば、たんぽぽ、ひよこでも見ているけれども、何かあったときには保健所がいてと言われて、保健としてのコーディネートを継続しているケースもあります。だから、ずっと同じように濃くかかわっているわけではなくて、退院した直後は健康づくり課さんやうちがメインでかかわってすごく濃厚なケアをし、訪問看護ステーションさんが入ってくると、日常的なところはお任せしながら節目節目のところは見ていき、いろいろ制度が使えるようになるとゆいはあとさんが中心になって入ってもらってというのがあるのです。そういうのは経験的にイメージできるのですが、それもぜひみんなで共有したいという思いがあります。そのために書いたのがイメージ図を作成してみたいということです。例えば障害福祉的なことで障害福祉課さんやゆいはあとさんが中心になったから、じゃあもう保健所はバイバイではなくて、医療的なサポートは訪問看護師さんがやったださるのですが、民間の事業所である訪問看護師さん

にいろいろなところへの連絡を全部やってくださいというのは、やはりそれはお任せし過ぎるというものだと思うのです。結構いろいろな方にかかわっていただいているケースもありますが、困ったら保健所に連絡してくださいということでご連絡をいただいて、必要なところに連絡して、実際のケアはいろいろな事業所さんとか学校とかそれぞれのところでやっていただいているのですが、どこから情報が入ってきたら、その情報はみんなで共有しておこうというところのつなぎをコーディネートするこちらでやったりとか、そういうふうにしなが親子の生活を支えさせていただいているということがあるので、そういうものをみんなで共有できると、コーディネートを受けるのも安心して受けられるかなと。うちだけが頑張らなくていいということで、そんなことをやっていきたいと思っています。

(星野座長)

ありがとうございました。総合療育相談センターさん、基幹センターからの立場になるかもしれませんが。

(狩野委員)

厚木地域の方々のご意見を聞いていて、そのとおりだと私も思っていました。やはり仕組みづくりというところで、関係機関の定期的な連携会議的なところと、個別ケース会議という2層構造の中で、関係機関の役割分担と、ライフステージに応じたコーディネーター役の役割の明確化が必要だと思います。まずこの会議の中で会議を主催する中心機関を定めて、コーディネーターは何をどこまでするのかとか、そういうことが検討できて、決めていけて進めていけるといいのかなということで書かせていただきました。

(星野座長)

ありがとうございました。ではもう既に皆さん考えてくださっているということですね。あと、こども医療とリハビリテーション事業団さんからも一言だけ、その部分をコーディネートのことに書いていращやるので。

(丹羽委員)

こども医療センターの丹羽です。今、こども医療センターの中では、お母さんたちのご意見等、あとぐあいが悪いときに、うちの支援室の看護師が対応させていただいていますけれども、やはりもう少し早く何とかできなかったかなというようなことをしょっちゅう聞きます。お母さんたちがこども医療センターに悪くなって来るのには、やはり敷居が高過ぎるというようなところがあったりしているようなのです。なので、お母さんたちがおうちで頑張り過ぎてしまっている、相談できなかったりしているところも多々あるようなのです。なので、皆様がおっしゃったように、連携をとりながら一人の子供さんのライフステージに合わせたことをやっていくためには、やはりこういうコーディネーターの役割をとる人が必要不可欠ということと、そういうところで私たちができることをさせていただきたいという思いで書かせていただきました。以上です。

(星野座長)

ありがとうございます。こども医療は患者さんがとても多いのですが、地域のことを全然知らないので、ぜひよろしくお願いしますとつけ加えておきます。

(蒔田委員)

神奈川リハビリテーションセンターの蒔田と申します。実際にはどこがコーディネーター役というように、一つのところに決めるというのは難しいだろうと思います。でも実際には、もう既にやられている訪問看護ステーションの方とか相談事業所の方とか、そのお子さんに応じて担当される部署が変わるのだろうと思うのですが、医療にかかっていないお子さんもいらっしゃるとか、それぞれのいろいろなケースについての事例を持ち寄りながら、このようなケースについてはこのように関係機関が集まって解決したとか、そういう話題がみんなで共有できるといいなと思います。私たちリハビリテーションとしては、機能訓練のためのリハビリではなくて、在宅生活をご家族もご本人も気持ちよく行っているための支援ということで、例えば福祉用具であるとか、介助の仕方であるとか、そういうご相談が実はお子さんについてはたくさんあるのです。福祉用具とか福祉機器というのは、お母さんお父さんがお子さんを抱えて大きくなるまで、親よりも大きくなった子供をおふろに入れていると。そこに器械の導入というのはとても抵抗があったりということできりぎりまで頑張られるのだけれども、腰痛であるとか、介護の担い手がきりぎりまで頑張ってもうできないといったところでご相談があるというようなことが多いのですが、やはり気づいたときから先々の自分たちの生活や、大きくなったら家はどのように変えていこうとか、そういうイメージスキルを持っていただくためにも、そういう情報や知識を持っていただけたらなということで考えています。実はあさって座間養護で福祉機器体験会というのをやる予定でいます。これは、学校に通っていらっしゃるお子さん、お母さんお父さん方だけではなくて、支援をしていただける相談支援の方にも声をかけまして、支援する側も福祉機器や福祉用具、それから住宅改修をして在宅生活をスムーズに行っていくということを実際にみんなで体験していただくというようなことを定期的に行っておりますので、そういう形で私たちのほうもかかわっていききたいなと思っております。

(星野座長)

ありがとうございました。確認、質問、よろしいでしょうか。大分時間も押してしまいましたので、このコーディネートについては、次回また引き続きの議論をさせていただこうと思いますので、今提案のあった方々のお話をもとにまたそれぞれ持ち帰っていただいてご相談いただいた上で、今後厚木でどうしていったらいいのかなというのを話し合えればうれしいなと思っています。

そうしたら、きょうはいろいろな議論をしていただきましたけれども、この議論を事務局のほうでまとめていただいて、来年度の取組内容の案という形で恐らく回していただければと思います。このコーディネートのことも含めて、それをもとに来年度以降どういう形

で厚木で動かしていったらいいかというのを、引き続き来年度の会議で話し合っていけたらと思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

（２）厚木地域のモデル事業の方向性について

（星野座長）

そうしたら、議題の２に厚木地域のモデル事業の方向性ということで、今後のことを事務局から説明いただけるようなのでお願いいたします。

（事務局）

それでは、資料４に基づいて、厚木地域のモデル事業の方向性についてご説明させていただきます。

厚木地域小児等在宅医療連絡会議、平成28年度の実行ですが、冒頭でもお話ししましたとおり、第１回の会議を６月に行って、第１回と第２回の間で、課題について実施可能な実行内容について各機関でご検討いただいて本日の会議を迎えているところでございます。先ほど座長のほうからもお話がありまして、本日皆様からいただいたご意見を実行内容（案）に反映させていただいて、今年度につきましては最後の会議となりますので、メール等で案について合意を得られればよいと考えております。右側の枠のところに厚木地域のフィールドと書かせていただいておりますが、既に実行を進めていただいている項目等も多くありましたので、またすぐにでも実行可能なものは順次実施していただければと考えております。28年度真ん中あたりに県小児等在宅医療推進会議（３月）と書いておりますけれども、こちらは全県的な会議になりますので、厚木・小田原地域の会議の内容を共有したいですとか、今後全県展開、全県的に波及させていくためにはどんなことをしていったらいいかといった方策を考えて検討する場ということで予定しております。こちらにつきましては後ほど説明させていただくのですが、29年度、また厚木地域の連絡会議のほうでは４月以降に実行内容について実施方法の検討ですとか研修の企画等、それから会議については第１回目を９月に予定していきたいと考えておりまして、実行内容の進捗状況の共有、それから第２回、また１月ぐらいに予定したいと考えていまして、実行内容の進捗状況の共有と、また来年度、その次の平成30年度の実行について検討を進めていけたらと考えております。

一番下の米印のところですが、実行内容は、必要に応じて見直しを行う。未解決の課題や新たな課題についても必要に応じて議論するというところで、特にきょうの会議では、コーディネーターの部分が引き続き議論の必要なところというような結論が出ているところかと思います。29年度につきましても、年度末に同じく全県的な会議を開催したいと考えております。

参考資料の５というのをごらんいただきたいのですが、こちらは全県の神奈川県小児等

在宅医療推進会議設置要綱となっております。今年度から来年度にかけて2年間、厚木と小田原でモデル地域ということで実施を予定しておりますので、それに合わせた形で改正したいと考えております。具体的には委員の任期の下線を引いた部分、真ん中あたりを少し延長するというような形で改正を考えております。

1枚めくっていただきまして、会議の委員名簿の構成案ということで、昨年度までは茅ヶ崎地域でモデル事業としてやらせていただいていたので、茅ヶ崎地域の関係者の方に入ってきていただいているのですが、名簿の一番下のところ、ちょっと細かいのですが、※の1、2、3で書かせていただいていますけれども、厚木・小田原地域で平成28年度から29年度にかけてモデル事業を実施しているの、モデル地域の中核病院である、本会議では厚木市立病院さん、厚木保健福祉事務所、モデル地域を所管する厚木市、小田原市、それぞれの母子保健と障害福祉の関係課の課長さんに出てきていただきたいと考えておりますので、また委員推薦等につきましては年明けに予定しておりますので、ご協力いただければと考えております。以上で説明を終わります。

(星野座長)

ありがとうございました。県の全体の会議も3月に予定されていて、そちらにもぜひ厚木の方々にも入っていただきたいので、またあわせてご出席いただければと思います。

何か今の件に関して、今後の予定に関してご質問等ありませんでしょうか。大丈夫ですか。

(事務局)

済みません、一点だけ。今の委員名簿の構成案なのですが、例えば市の健康づくり課課長さんというように書かせていただいているのですが、これは茅ヶ崎は課長さんが出ていらっしゃるということでとりあえず課長と仮置きしているので、どなたにでていただくかはお任せしますので、それだけ補足しておきます。

(星野座長)

ありがとうございました。いずれにしてもぜひよろしくお願いいたします。

それでは、きょうの議題は以上ですので、とても先が楽しみな話し合いができたように思います。ここまでで議事を終了させていただきます。ちょっと不手際で少し時間を超過していますけれども、ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

閉 会

(事務局)

それでは、本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、また活発に意見交換していただきまして、まことにありがとうございました。今年度の会議につきましては今回が最後になります。ただ、きょうの結果をまとめて皆様にお返しして、またご意見をいただいて

最終的に今年度の締めとしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから最後に、県のほうから周知なのですが、資料の中に「ともに生きる」と書いてあるチラシがございます。これは、津久井やまゆり園で起きた事件を受けまして、県のほうで改めて、ともに生きる社会を実現していくという決意を込めて、憲章というものをつくりました。それを皆様にぜひ知っていただきたいということでチラシをお配りさせていただきましたので、ご一読いただければと思います。

それでは、本日の会議は終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。